2026年11月12日

各　位

会社名　　株式会社MUSCAT GROUP
代表者名　　代表取締役 大久保 遼
（コード：195A、東証グロース市場）
問合せ先　　執行役員経営管理本部長 森岡 祐平
（TEL. 03－6684－2373）

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向及び本日付で公表いたしました「株式会社betの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」に記載の株式会社betの子会社化に伴う影響等を踏まえ、2026年５月14日に公表いたしました2027年３月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。あわせて、業績予想の開示項目を変更いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．2027年３月期通期連結業績予想数値の修正（2026年４月１日～2027年３月31日）

	売上高	営業利益	調整後 EBITDA	調整後当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 6,602	百万円 50	百万円 324	百万円 128
今回修正予想（B）	15,444	△211	75	－
増減額（B－A）	8,842	△261	△249	－
増減率（%）	133.9	－	△76.9	－
（ご参考）前期実績（2026 年３月期）	4,129	△399	△118	310

（注）１．調整後 EBITDA＝連結営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋取得関連費用。
２．前回発表予想において開示しておりました調整後当期純利益は、今回の修正予想より業績予想の開示対象から除外しております。詳細は、下記「３．調整後当期純利益の開示の取りやめについて」をご参照ください。
３．親会社株主に帰属する当期純利益は、業績予想の開示対象としておりません。詳細は、下記「４．親会社株主に帰属する当期純利益の業績予想について」をご参照ください。

２．修正の理由

①　売上高

当中間連結会計期間においては、株式会社WinCが展開するオーラル美容ブランド「MiiS」の卸向け売上及び一部主要モールでの売上並びにMOVE事業の売上高が計画を下回りました。また、期初に見込んでいた大手美容ブランドとのオーラル美容におけるブランドプロデュースの大型取引について、当社内でリスクを再検討した結果、第２四半期末に取りやめを決定いたしました。一方で、2026年８月に一般販売を開始した電動歯ブラシ「MiiS LIFT BRUSH」の販売が９月以降伸長していることに加え、株式会社betを2026年11月に連結子会社化し、同社の

2026年12月から2027年３月までの業績（売上高9,124百万円見込み）を当社連結業績に取り込む見込みであることから、売上高は前回発表予想を8,842百万円上回る15,444百万円となる見込みであります。

なお、株式会社betを除く既存事業の売上高は6,321百万円（前回発表予想比281百万円減）を見込んでおります。第１四半期決算説明資料 P.25「通期業績予想の考え方」においては、MiiSの売上高の減少は一時的なものと判断し、第２四半期以降の新商品投入とあわせた回復を見込むことから、通期業績予想を据え置いておりました。新商品である「MiiS LIFT BRUSH」は９月以降販売が伸長し、10月には株式会社WinC単体で月次営業黒字となる見込みであるなど回復が進んでいるものの、上記の大型取引の取りやめ及びMiiS既存商品の卸向け売上等の未達により、既存事業の売上高は前回発表予想を下回る見込みとなりました。

② 営業利益及び調整後EBITDA

株式会社betを除く既存事業の営業利益は、前回発表予想を374百万円下回る営業損失324百万円となる見込みであります。主な要因（括弧内は、前回発表予想の前提とした計画に対する営業利益への影響額）は、上記①に記載した大手美容ブランドとの大型取引の取りやめ（149百万円）に加え、株式会社WinCの既存ブランドにおける売上高の未達（85百万円）、美容歯科クリニック（MOM・春樹会）における顧客獲得単価の高騰に伴う販売費及び一般管理費の増加（164百万円）、株式会社かならぼにおける買収前在庫の返品の継続及びモール売上の拡大に伴う支払手数料の増加（39百万円）、並びに全社費用の増加（22百万円）であり、株式会社松村商店、HaD及び株式会社ライスカレープラスにおける利益の上振れ（92百万円）により、その一部を吸収する見込みであります。

株式会社betについては、同社の2026年12月から2027年３月までの業績により、連結営業利益に113百万円の寄与を見込んでおります。

これらにより、上期の営業損失299百万円に対し、下期においては「MiiS LIFT BRUSH」の販売拡大による株式会社WinCの黒字化及び株式会社betの連結により、88百万円の営業利益を見込んでおります。また、第４四半期は既存事業のみでも営業黒字となる見込みでありますが、通期では上期の損失を吸収するには至らない見込みであります。なお、MOVE事業に係るのれんの減損により、下期以降の同のれんの償却費は発生いたしません。以上により、営業損失は211百万円（前回発表予想は営業利益50百万円）、調整後EBITDAは75百万円（前回発表予想は324百万円）となる見込みであります。

なお、本日別途公表いたしました「特別損失の計上に関するお知らせ」に記載の特別損失は、営業利益及び調整後EBITDAには影響いたしません。また、本項に記載の内訳の数値は、端数処理により合計と一致しない場合があります。

３．調整後当期純利益の開示の取りやめについて

当社は、2026年５月14日に公表いたしました業績予想において、調整後当期純利益を業績予想の対象としておりました。調整後当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益からのれん償却費・負ののれん発生益・のれん減損損失・取得関連費用の影響を除き、さらに税効果は一時的なものとして除いたうえで法定実効税率を乗じた税金費用を計上した、株主に帰属する利益を表す指標として重視してまいりました。しかしながら、当社グループでは事業ポートフォリオの見直しに伴う組織再編やM&Aを継続的に実施しており、その過程で、関係会社株式売却益や事業撤退損、投資有価証券評価損等、本指標の調整項目に含まれない一時的または臨時的な損益が生じてまいりました。

当社は、こうした損益が生じる過程で、本指標が当社グループの継続的な収益力を適切に表しているかを検証してまいりましたが、組織再編やM&Aが今後も継続する見込みであることに加え、当中間連結会計期間に計上した投資有価証券評価損は期中洗替え方式により期末の時価

に応じて計上額が変動し得るなど、本指標が当社グループの事業の収益力とは関わりのない要因により変動する状況が今後も続くものと判断いたしました。このため、株式会社betの子会社化に伴い業績予想全体を見直す今回の修正を機に、調整後当期純利益を業績予想の開示対象から除外することといたしました。今後は、営業利益及び調整後EBITDAを当社グループの収益力を示す主要な指標として重視してまいります。

４．親会社株主に帰属する当期純利益の業績予想について

当社は、2026年５月14日に公表いたしました業績予想においても、親会社株主に帰属する当期純利益を業績予想の対象としておらず、今回の修正予想においても開示対象としておりません。これは、以下の理由により、現時点において通期の親会社株主に帰属する当期純利益を合理的に算定することが困難であるためであります。

（１）当社グループは、持株会社である当社及び収益構造の異なる複数の連結子会社で構成されており、税金費用は各社の課税所得の状況及び繰延税金資産の回収可能性の判断により大きく変動いたします。また、株式会社betの子会社化に加え、今後の組織再編やM&Aの実施によりグループの構成が変動し得ることから、通期の税金費用を現時点で合理的に算定することは困難であります。

（２）当中間連結会計期間に計上した投資有価証券評価損は、期中洗替え方式により期末の時価に応じて計上額が変動するため、期末時点の株価水準によって当期純利益が変動いたします。

なお、当中間連結会計期間の親会社株主に帰属する中間純損失は691百万円であり、これには本日別途公表いたしました「特別損失の計上に関するお知らせ」に記載の特別損失316百万円が含まれております。今後、親会社株主に帰属する当期純利益の合理的な算定が可能となった場合や、業績に重要な影響を与える特別損益の発生が見込まれる場合には、速やかにお知らせいたします。

（注）上記の業績予想等の記述は、発表日現在において当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上